

カラダもココロも健康に

いきいきらifu

no.91
2026.SPRING

徳大病院だより

特集

がんのリハビリテーション について

■CLOSE UP

感染制御部について

■徳大病院ニュース

- ・第8回日本オープンイノベーション大賞
「科学技術政策担当大臣賞」を受賞しました
- ・徳島大学病院フォーラム2026春を開催しました
- ・ドクターカーが贈呈されました

■tokudai-staff information



 徳島大学病院
Tohoku University Hospital

がんのリハビリテーションについて

命に寄り添い、
人生を応援します

「リハビリテーション」とは「生活や自分らしさを取り戻すこと」を意味し、心身の回復だけでなくその人らしい生活を支える役割も担っています。リハビリテーションについて、リハビリテーション部の松浦先生にお話を

する言葉でもあります。今回はがん治療における伺いました。

がんのリハビリテーションとは

がん治療は手術療法のほか、抗がん剤治療や放射線治療などがあり、患者さんに身体的・精神的な負担をもたらします。がん治療中のリハビリテーションでは、体調の変化も大きいので、心身の状態を確認しながら無理のない範囲での運動や生活動作の支援を行います。さらに、緩和ケアとしてのリハビリテーションでは、病気の進行に関わらずできることを大切にしながら、日常生活をより快適に過ごせるよう支援しています。

リハビリテーションを支える医療従事者

●理学療法士

座る・立つ・歩くといった日常生活の基本となる全身の運動機能の訓練を行います。治療にともなう筋力低下や身体機能の低下を予防・改善するため、筋力訓練や持久力訓練を行うことで機能回復を促します。近年では「サルコペニア」といって、全身の筋肉が少なくなることで様々ながんにおける治療に悪影響が出るのが分かってきました。本院では特にこのサルコペニア予防へ、治療前・治療中の積極的な運動をサポートしています。

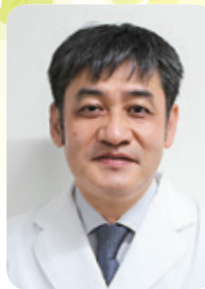


筋力訓練※理学療法士

●作業療法士

文字を書く・着替えるなど、より日常生活に即した応用動作の訓練を行うとともに、治療や入院生活の中で生じる不安な気持ちにも寄り添い、心と身体の両面から支援します。

退院後の生活がスムーズに行えるよう、リハビリテーション室だけでなく入院中のお部屋や廊下、トイレなど日常生活に近い環境での訓練も行います。また、特に乳がん術後の患者さんに対しては、腕の動かしにくさやリンパ浮腫などの予防に作業療法士が対応しています。



■説明は
徳島大学病院
リハビリテーション部
部長
松浦 哲也
(まつうら てつや)

患者さんへひとこと

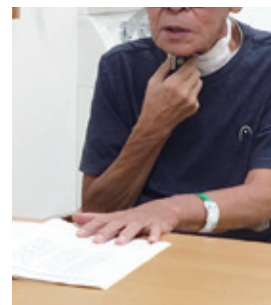
リハビリテーション部は患者さんの生活の質を向上させるように努力しています。また、精神的な面でも患者さんの人生に寄り添えるように努力しています。伴走者として患者さんの人生に寄り添い、治療を受けた方がしっかりと元の生活に戻れるようなサポートを行ってまいります。



折り紙で指先を使う訓練※作業療法士

●言語聴覚士

話す・飲み込むなどの訓練を行います。がん治療に伴い声が出せなくなった場合のコミュニケーション手段の提案、脳腫瘍などでうまくしゃべれない場合の言語訓練に対応しています。また、治療の影響で食事がうまく飲み込めないなどの場合には、嚥下訓練や食事形態のアドバイスをを行い、診療科医師や管理栄養士とも連携してサポートを行っています。



電気喉頭練習※言語聴覚士

早期回復への取り組み

リハビリテーション部では多職種が集まり週2回カンファレンスを行っています。患者さん一人ひとりの状態や治療内容を共有し、より適切なリハビリテーションの提供に繋がっています。研究面では、がん治療を行う上で必要となる体力や活動の指標を明らかにし、治療後の合併症を少なくする方法を考案しています。

リハビリテーションには「つらい」というイメージを持たれることもありますが、体を動かすことで気持ちが前向きになり、リフレッシュに繋がると感じる患者さんも多くいらっしゃいます。

今後もリハビリテーション部では患者さんの一日も早い回復と社会復帰を支えるため、土日にも対応できる体制を検討しています。



リハビリテーション室

CLOSE UP!



感染制御部について

感染制御部は院内での感染症対策はもちろん、地域の医療機関とも協力しながら、患者さんが安心して医療を受けられる環境づくりに日々取り組んでいます。コロナ禍では重症患者さんの治療を支えるとともに、医療従事者の安全確保にも注力し、徳島県全体での感染拡大防止に尽力しました。

今回は部長の松岡先生をはじめ、感染制御部の皆さんにお話を伺いました。

● 感染制御部について

医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員の多職種が連携し、それぞれの専門知識を活かして院内の感染に関する様々な問題の解決にあたっています。注意すべき微生物が検出された際には、細菌検査室から報告されるデータをもとに感染経路や原因の特定を行い、感染制御部が中心となり院内全体の感染対策を進め



新興感染症に対する集合訓練の様子

ます。

日々の取り組みの一つがICT(感染制御チーム)ラウンドです。感染管理認定看護師を中心に、毎週各病棟や外来を順番に訪問して感染対策が適切に行われているかを確認しています。また、現場の課題があればその場で改善策を一緒に考え、指導や教育を行っています。もう一



患者さんへひとこと

患者さんと直接関わる機会は少ない部署ですが、患者さんやそのご家族が安心して治療を受けられるような環境を日々整えています。安心・安全な医療の提供のため、引き続きご協力をお願いいたします。感染対策等のことでお困りのことがあればいつでもお気軽にご相談ください。

■説明は

徳島大学病院
感染制御部の皆さん
センター長

松岡 賢市

(まつおか けんいち)

※一列目中央



つの取り組みが、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)の活動です。感染制御部に所属する薬剤師を中心に、カンファレンスで抗菌薬が適正に使用されているか話し合い、必要に応じて各診療科にフィードバックしています。

本院は第一種感染症指定医療機関に指定されており、

● 地域との連携について

本院は行政機関とも連携し、新興感染症の発生を想定した集合訓練を含め地域の関連病院と合同カンファレンスを年に4回実施しています。加えて地域の連携病院を年に4回程度訪問し、各施設からの相談事項に対応したり、改善が望まれる点について実施可能な感染対策を共に考えたりすることで、地域の医療機関における感染対

エボラ出血熱などの重篤な感染症が発生した際に受け入れられるよう、物品や機器、体制を整備しています。さらに、感染対策や抗菌薬適正使用について院内向けの研修も行うなど、継続的な取り組みを通して医療の質の向上と病院全体の安全な医療環境の整備に努めています。

策の充実も図っています。

また、本院は歯学部を併設した大学病院であり、中四国地域の大学病院に対して歯科治療特有の感染リスクについての情報共有や研修も行っています。このように、地域の枠を超えて関係機関と連携した啓発活動を継続することで、安心して医療を受けられる環境づくりに取り組んでいます。

手指衛生推進キャンペーンのお知らせ

日時：2026年5月20日(水) 13:30～16:00

場所：外来病棟1階アメニティホール 主催：感染制御部

正しい手指衛生の方法や手指衛生を実施するべきタイミングについてオリエンテーションを行います。

徳大病院ニュース 徳島大学病院の最新情報をお届けします

TOKUDAI BYOUIN NEWS

第8回日本オープンイノベーション大賞 「科学技術政策担当大臣賞」を受賞しました

令和8年2月9日、本院の泌尿器科助教 佐々木雄太郎が内閣府主催の第8回日本オープンイノベーション大賞「科学技術政策担当大臣賞」を受賞しました。ノミネートされた取り組みは「ロボット手術で血管テーピングを安全・円滑に行う革新的デバイス『ヴァスガイド』の開発とその臨床応用」であり、このデバイスは現在全国の医療機関で活用されています。



徳島大学病院フォーラム2026春を開催しました

令和8年3月1日、徳島大学蔵本キャンパス内の大塚講堂において市民公開講座「徳島大学病院フォーラム2026春」を開催しました。今回は「こころもからだも前向きに～認知症・こころ・歯の健康～」と「がんロコモ」と題した2部構成で実施しました。

約550人の参加者の方々は、本院の第一線で働く専門医の話に熱心に耳を傾けておられ、本フォーラムは盛況のうちに終了することができました。



ドクターカーが贈呈されました

令和8年3月12日、南青山ひだまりクリニック院長・濱本恒男様より、本院にドクターカーを贈呈いただきました。ドクターカーは、医師・看護師が救急現場へ速やかに出動し、より早い段階で高度な医療を提供することを可能にする車両であり、本院の診療活動のさらなる充実に大きく寄与するものです。あわせて、災害派遣医療チーム(DMAT)による迅速かつ確かな医療支援活動の推進にも資するものであり、救急医療体制の一層の強化と地域医療へのさらなる貢献が期待されます。



tokudai-staff information

新病院長補佐のご紹介



病院長補佐
(経営戦略・企画担当)
血液内科 診療科長

松岡 賢市
(まつおか けんいち)

今年度より、病院長補佐として経営戦略・企画を担当いたします。人や仕組みの力を活かし、世界最先端の医療を、安全に適切に温かく、患者さんへ届けられる病院を目指します。そのために、固定観念に捉われることなく、職種や部門の枠を越えて現場の声を丁寧に拾い上げ、院内の仕組みや流れを見直し、より良い方法があれば積極的に取り入れて参ります。地域の医療機関とも連携を深め、広域に充実した医療提供体制づくりを進めます。どうぞよろしくお願いいたします。

治験を実施しています

現在、開発中の医薬品あるいは医療機器、再生医療等製品の候補となるものを用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して厚生労働省から「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思っておりますので、**お気軽にお問い合わせください。**

- 肺がん
- 大腸がん
- 尿路上皮がん
- 前立腺がん
- 卵巣がん
- 悪性リンパ腫
- 統合失調症
- 金属バネアレルギー
- 原発性IgA腎症
- 筋萎縮性側索硬化症
- ネフローゼ症候群
- 家族性認知症
- 気管支拡張症
- 心房細動および心房粗動
- 全身性強皮症を伴う間質性肺疾患
- 皮膚潰瘍
- 温式自己免疫性溶血性貧血
- 上肢痙攣
- 不妊症

ご協力
をお願いします。

問合せ：臨床研究推進部
tel.088-633-9294

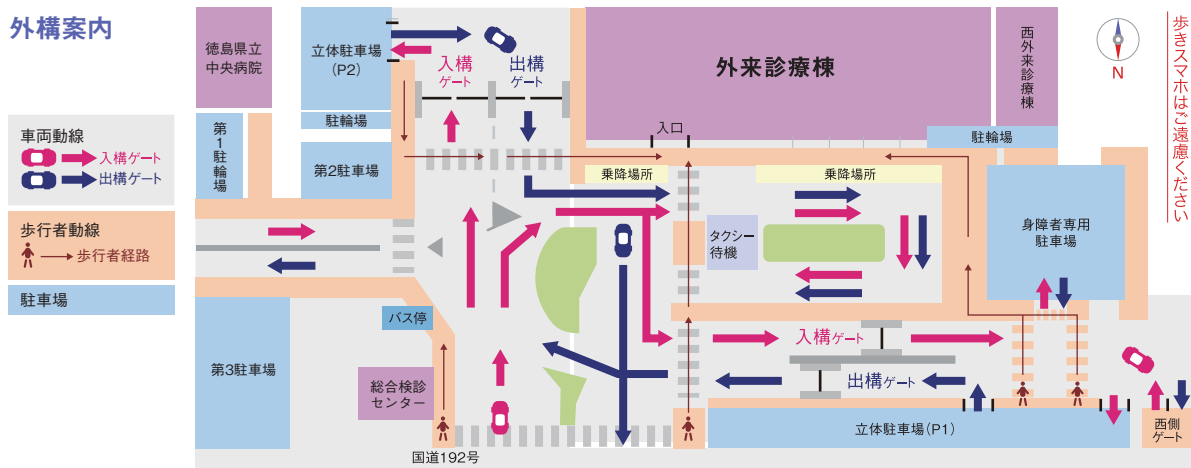
ゆめtoみらい基金が設立されました

このたび、徳島大学病院では新たに「ゆめtoみらい基金」を設立いたしました。

皆さまから賜りましたご厚志につきましては、老朽化した施設・設備の改善及び再々開発、医療の質・患者満足度の向上、先端的な研究推進や未来の医療人材育成へと役立ててまいります。



外構案内



予約変更、予約キャンセル、予約確認

●AI電話

Tel.050-1722-0148 (8:30~17:15 (休診日除く))

各相談室・検査の連絡先

●難病・てんかん・高次脳機能障害など医療福祉相談

Tel.088-633-9107 (8:30~17:00 (休診日除く))

●がん相談

Tel.088-633-9438 (8:30~17:00 (休診日除く))

●緩和ケア相談

Tel.088-633-7457 (8:30~17:00 (休診日除く))

●肝疾患相談

Tel.088-633-9002 (8:30~17:00 (休診日除く))

●脳卒中・心臓病等に関するご相談

Tel.088-618-0171 (8:30~17:00 (休診日除く))

●遺伝カウンセリング

Tel.088-633-9218 (9:00~17:00 (休診日除く))

●セカンドオピニオン

Tel.088-633-9654 (9:00~17:00 (休診日除く))

徳島大学病院へのご寄付

本院では、一層充実した医療を提供するために、寄付金というかたちで皆様のご厚志を生かしていきたいと考えています。皆様のご支援は、①病院設備・サービスの充実②診療環境の充実③医療スタッフの育成④地域医療への貢献のために充てさせていただきます。ご寄付をいただき心から感謝いたします。

●寄付者のご芳名 ご同意していただいた方に限り、ここにご芳名を掲載させていただきます。

※2025/11/1~2026/1/31時点(順不同)

高橋 和代様 土内 彰様 瀧 浩樹様 大久保 仁様
藤井 春奈様 楠本 正志様 KIZUKI部様

●お申し込み状況 総件数：27件 総額：4,669,808円

※2025/4/1~2026/1/31時点

●お申し込み方法 徳島大学病院のホームページでご覧いただけます。来院の中のお申し込みは、経理調達課経理・管理係または、お近くの当院スタッフまでお申し出ください。

●お問い合わせ 経理調達課経理・管理係
(月~金8:30~17:00)Tel.088-633-7016

 徳島大学病院
Tokushima University Hospital



〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50-1

■ご意見・ご要望は下記までお寄せください
bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp

発行者 病院長 西良 浩一
編集部長 石澤 啓介
広報委員会 川人 伸次 原田 雅史 滝沢 宏光 板東 美香
委員 藤井 志朗 久保 亜貴子 大川 敏永 桐野 靖
武川 香織 戸崎 美鈴 兒玉 実和 金子 由起
松木 由美 井田 陽子 藤原 慶一 田木 真和
事務担当 総務課広報・企画係 Tel.088-633-7697